

高校生年代におけるGKコーチの現状と課題について

—主に、山梨県について—

大磯 寛晃 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：ゴールキーパー GKプロジェクト 指導者

1. 諸言

サッカーにおいてGKというポジションは、自陣のペナルティエリア内でゴールを守るために11人の中で、唯一1人だけ手でボール扱うことが許されるポジションである。このように、GKという特殊なポジションを指導できるGKコーチは大変重要である。しかし、GKコーチがいる環境というのは、Jリーグの下部組織など極わずかである。筆者の地元である山梨県では、GKを育成する組織が成り立っていないのが現状である。

このことから、本研究では、山梨県内の県立高校を中心にGKコーチの現状と課題について、アンケート調査を行い、今後のGKの発展の為に必要なプログラムや指導方法についての資料を得ることを目的とする。

2. 調査方法

【対象】 2010年度全国高校サッカー選手権・県予選に出場した山梨県内の高等学校のサッカー部と高校生年代のサッカーを指導されている指導者とGKの選手とする。

【方法】 ①筆者が作成した調査用紙を用いて、配布し、アンケートを実施する。
②同時に、GK育成の歴史や海外の育成の実態についての文献調査を行う。

3. 結果と考察

指導者・GKの選手双方に、GKコーチは必要であると考えているが実際問題として所属チームの指導者の人数や金銭的な部分の問題でGKコーチを所属しているチームは少ない。また、GK育成プログラムを全てのGK選手と指導者に対して実施し、日々のトレーニングに活用できるような取り組みにしていかなければGK育成プログラムを行っても効果が薄れてくる。応用的な技術よりも「仲間との信頼関係」も必要であり、「10人+1人」ではなく、「11人」としてのGKというポジションの理解が必要であるとも言える。

4. 結論

本研究において、山梨県のGKコーチ・GKコーチのライセンス取得者の数が圧倒的に少ない事が分かった。また、都道府県ごとに行われているGK育成プログラムを地域ごとに行うなど細かく実施することで、指導者・選手ともに、今まで以上に知識・技術の向上を図ることができると思う。

参考文献

中高生のためのサッカー講座 GK 編
(2003) 池田 哲雄 編集兼発行